



# 日日進步

會報文中の[番号]は、會員番号を示します。  
Hong Kong Public Transport Tourism Association ©

「現在、11年住んだ香港を離れ、シンガポールをメインにして、香港往復の生活中。日々、香港との違いを楽しむ生活を楽しんでいるところです」という森山さんが、キャセイ航空・香港政観・京急百貨店の合同企画「思い出の香港写真展」に入選したとの報が！  
作品とともに、出品までのいろいろを教えてくださいました。(写真提供：[014])

## 「思い出の香港写真展」

[023] 森山 正明

「思い出の香港写真展」入選のご案内

### 「思い出の香港写真展」入選のご案内

このたびは、「思い出の香港写真展」へ応募頂きまして、有難うございました。貴方の作品が、丸々もとお氏選考により入選しましたので、ここに公開いたします。香港の魅力を伝える「香港のクリスマス」

■入選作品の展示  
2011年12月15日(木)～12月25日(日)の11日間、京急百貨店の「クリスマス大展開演」

小柳さんからの一通のメールがいつものように届いたのでクリックすると、そこには、「香港の写真展の作品募集があります。」「HKPTAで集中的に作品を出して、楽しむというのもいいですね。」との案内が。メールが届いた日付は、11月11日。締め切りはなんと11月15日。募集要項には、消印有効とは書いていなかったもので、コンコルドなみのスピードで応募規定にある条件をそろえた。時間がなかったので、お気に入りの2枚を選び、翌12日の土曜日、シンガポールの郵便局からスピードポストで日本へ発送。ただ、料金が日本円換算で2400円かかると言われ、発送するのを躊躇してしまっていたが、「えいっ」と窓口に押しこんでしまった。



「2400円もかけて送ったのに、選から漏れたら妻から怒られる」とびくびくしながら数日、一週間、二週間、三週間と日が経ち、「ああ、入選しなかったんだなあ。」と落ち込んでいたところ、作品展示の二日前に、実家の父から連絡があり写真が入賞していることを知った。しかも副賞がツーリスト商品券50000円！小躍りしながら妻に報告すると「さすが正明くんだね。」と一緒に喜んでくれたのが嬉しかった。

今回の入賞は、作品選考者(夜景評論家の丸々もとお氏)好みの夜景に絞って応募したのが功を奏したのだと自

画自賛。自分の作品が他の方に評価されるのは、やはり嬉しいもの。ツイッターやフェイスブック、ミクシーなどでつぶやきまくって、日本に住んでいる方々に見に行ってもらえるように告知。HKPTA会員のマリオさんが時間をつくってくれて、会場に足を運んでくれた。会場の様子を写真で送っていただいたので、さらに入賞した喜びの実感が湧いてきた。香港写真については、日本人の中で第一人者を自称していたが、これで名実ともにNO.1(言い過ぎ?かな)。これからも香港の写真を撮り続けていきたいと誓った新年となった。

## 9年目に突入

[001] 小柳 淳

HKPTAは間もなく新年度に入ります。今回は会則の改訂をするので、あらためて読み直したとき気づいたのですが協会は2004年1月の発足でした。なんともう9年目に突入してしまっているのです。光陰矢の如し、いや少年易老學難成でしょうか。パーティで集まったり、貸切香港トラムで遊んだり、会報に香港経験を書いたりとあまり肩の凝らない大人の遊び方ができているのかもしれませんが。この会則改訂は会員の連絡先情報管理にかかわるものです。いままでメール送信する場合、「bcc」送信でアドレスが公開しないようにしてきたのですが、やや窮屈なものでした。お互いの良識に基づいた管理をすればこれほどの厳格さはなくても問題はないと思います。詳細は別途会員にお送りする資料を読んで下さい。これからも、会則に限らずパーティなどの出会いでも、大人の遊びらしく爽やかに過ごしてゆきましょう。



さて、2011年度は「会員の香港入境回数カウント」がテーマでした。結果は43回。最多入境回数は4回で、小松崎夫妻、赤澤さん、渡部さんでした。私は自分では平均的な3回でした。また、11月のトラムパーティでは一挙に12名15回入境とカウント数を押し上げました。東日本大震災の少し後に旅に出ていいものか逡巡した人もいたようです。カウントは2011年限りですが、すでに12年の初香港を済ませた人もいます。強者揃いのHKPTAですね。どうぞこれからも香港の話題で楽しみましょう。



氷雨降る師走初日の朝5時半、開店準備を始める弁当屋馬利奥はその異変に気づく。「東京早晨(そんな番組あるか?)」によると、昨日の気温は19.2℃、今日の予想はなんと7℃。「たった1日でこんなに違うはずがない!」納得のいかないボクはゆっくりと、昨夜からの足取りを振り返る……。

十一月末日・星期三夕刻。東京地鐵・新宿三丁目站落車、かつてのホームPulseさん前を通り過ぎ、靖国通りを新会場へと急ぐ。“phonic:hoop”……蘭桂坊かナッツフォードテラスを思わせる洒落たカフェバー。ボクは受付業務をサポート。歓迎光臨! 熱き香港迷ゲスト5名様。地階に下りれば、レッドならぬホワイトクリフがスクリーンの代役。

小松崎キョロさんの乾杯の音頭で開会。トラムパーティのスライドショーに大の大人が大はしゃぎ。しばし歓談の時間、少し冷静になってこの会合を客観的に眺める。会員同士が、初対面同士が、あっちもこっちも香港本広げて香港談義。広い地球上の僅かなピンポイントに、なぜにこんなにも熱中できるのか。隣席のキョロさんに思わずツイート。「一步引いて眺めてみるとさあ、実にあやしい集団だよな」……隣人から否定の返事はない。やはり同感か。ってオイオイ、自分らを棚に上げて何を言う!

後半は恒例、ビジュアルクイズ。ボクの守備範囲問題にはすかさず「解答禁止令」が下る。嗚呼! 早苗秘書長、今回はちゃんと航空問題を用意してくださった。的を射た答を出せて何とか面目を保つ。



永田さんと当日ゲスト参加の小野寺さん、池上さん。  
「中華街トークイベント」トリオです



永田カメラマン撮影による小柳会長のポートレートに失笑、何やらまた香港本出版計画があるらしく。裏グルメ本の池上・小野寺コンビより中華街での春節香港トークパーティのインフォでお開き。幹事に司会に映写にBGMにとご尽力くださった和地・渡部両小姐に心から多謝!

……「やはりそうであったか。昨夜は確かに亜熱帯の香港にいたのだ。そしてキャセイの夜行CX524便で真冬の東京に帰ってきたのだ」そう思わずには納得できない、新しい空間をも香港一色で見事に染めた、充実のパーティでありました。

**旅**はその途中に **旅**があるからおもしろい!

**折る指に隠された、運転手の温かさ**

[006] 青田 孝

いきなり怒られた。交易広場のバスセンターで、「260 快速赤柱」の運転手に、「Repulse Bay」と書いた紙を差し出したときだ。英語で「行きますか」と聞くも聞かぬも、あまりの剣幕に、ほうほうの体でバスを降りる。隣に「赤柱」とだけ書かれたバスが止まっている。同じ紙を出すと、また怒られた。しかし今度の運転士は紙の英文を指し、なにやら叫んでいる。そこで遅ればせながら気がついた。2人とも英文が読めなかったのだ。あわてて「浅水湾」と書き直して見せたら、またまた恐ろしい顔で運転席のすぐ後ろの席を指す。どうやら「着いたら教えてやるから、そこに座って」と言うことらしい。

やがてバスは走り出す。しかしこの席がこんなに怖いとは初めて知った。猛スピードでの急発進、急停車は当たり前、車列への割り込みもなんのその、がんがん突っ走る香港流の運転。普段は二階席に座っているためさほど恐怖を感じなかったのだろう。

やがて峠の急坂にさしかかる。道は狭くなり、大型バス同士のすれ違いはかなりの技術を要する。さすがに徐行し、しかも両側のバックミラーを指差し確認。広東語だから意味は分からないが、日本語ならさしずめ「右よし、左よし」と言っているのだろう。「さすがプロ。やるときはやるんだ」と感心していると、ある停留所で突然、運転士がこちらを振り向き、左手を挙手するように顔の横にかかげた。5本の指は開いた状態だ。何の意味かと首をかしげていると、次の停留所で指は4本に。そして次は3本に。何のことは無い、降りる停留所まで「後いくつ」と知らせてくれていたのだ。

バスは程なく「浅水湾海難」に到着。こちらの「多謝你」が通じたのか、鬼のような顔がはじめてにっこり。なんか愉快な気分バスを降りた。

気がついたのはバスが走り去ってからだった。オクトパスのタッチを忘れていたことを。



怖い運転手も、以前はこんなバスで訓練を受けていたのだろうか。香港島・中環にて

**恭喜發財。お年玉プレゼント**

後記  
というか、

「利是袋」を和地さんが買ってきてくれたので1枚ずつ同封します。さて、そのお年玉袋の1枚にだけ、10HK\$のお札を入れておきました。森山さんの「5万円の旅行券」とはスケールが違うけど勘弁してください。袋はよく交ぜたので、誰のところに行くか私にもわかりません。今年最初の幸福は誰のものに!?(入った人は教えてね) スポンサーは太っ腹の秘書長。(私です・002)